



時代を拓き 世界に貢献する人を目指して

# Global View

2016年7月9日 Newsletter 第45号 仙台白百合学園中学・高等学校 国際教育部

## 「フィリピンとの交流、20年」

教頭 阿部 和彦(社会科)

5月27日、本校のステラマリスで、フィリピンの姉妹校から来校した生徒達の送別会が行われた。今回の来校は総勢26人で、セントポールカレッジ・パッシング校の生徒に加えて、ネグロス島のドゥマゲテ校の生徒3名も加わっている。送別会の後半では、民族衣装を着た生徒達の伝統的な踊りが披露された後、ホストシスターである本校生を踊りの輪に引き入れ、両国の生徒によるダンスが始まった。共に踊るフィリピンと本校生の楽しそうな姿を眺めていると、この交流が始まった当時の情景が思い出されてきた。

本校とフィリピンの姉妹校との交流は、1996年に、宮城県が主催する「宮城・フィリピン交流事業」に参加した2人の生徒と私が、自由行動日を利用してマニラのセントポールカレッジ・ケソン校を訪問し、交流を申し入れたのが始まりだった。その頃、Sr.吉田や大竹真砂子先生らと、白百合はこれだけ世界に姉妹校があるのになぜ交流しないのだろう、ということをよく話していた。そんな時、この交流事業に2人の本校生が参加することを知り、当時の三ツ谷校長先生にお願いして同行させてもらい、交流を願う校長親書を携えて姉妹校を訪れたのが、今に至るフィリピンとの交流の始まりだった。この訪問では、私達のために、20人程の生徒が歓迎の民族舞踊を披露してくれた。あの時から交流が始まり、ちょうど20年になる。現在に至る交流の歴史を年表風にしてみると、以下の通りである。

1996(H8) 2人の本校生、宮城県の交流事業でフィリピンへ。この時初めて姉妹校を訪問。

1998(H10) (紫山への移転の年) 本校生、姉妹校(ケソン校)へ1年留学

1999(H11) 姉妹校(ケソン校)の生徒11人、初めて本校を訪問

2004(H16) 高校コース制の始まりにあたって、韓国研修とフィリピンの姉妹校との交流がLIコースの特色として位置づけられ、この年、第1回「フィリピン・ボランティア・スタディーツアー」が行われる。(引率; 阿部和、吉本、Sr.斉藤) またこの時から、裏紙を使った「リサイクルノート」をフィリピンの子どもたちへ送る活動が始まる。

2005(H17) 貧しい人々のために医療活動をするシスター・エヴァ来校

フィリピンの姉妹校(パッシング校)来校

第2回フィリピン・ボランティア・スタディーツアー(引率; 大竹、工藤)

その後、1年ごとに相互訪問を行う交流が定着し、フィリピンの姉妹校の生徒が来校するのは今回で8回目。また、フィリピン・ボランティア・スタディーツアーは、昨年で7回を数えた。

これらの交流は、本校の設立母体がシャルトル聖パウロ修道女会であるからこそ出来たことである。この修道女会は、国境を越えて、世界35カ国で献身的な奉仕活動を行っている。近年、グローバル化の進展の陰では格差が広がり、社会から忘れられがちの人々が増加している。心に留めておかなければならないのは、そうした人々への共感と、他者のために自分を役立てようとする奉仕の実践の大切さである。スタディーツアーでも、姉妹校が運営する小学校で貧しい地区の子ども達と交流し、シスター・エヴァが支援する少数民族のアエタ族の子ども達と触れ合ってきた。仙台白百合学園は、すべての人々が大切にされる世界をめざして行動する世界的なつながりの上にある。これからも、20年に渡って積み上げられてきたこのフィリピンとの交流を通して、奉仕の心とグローバルな視野、人を支え人をつなげる行動力が生徒達の中に育まれていくことを願っている。